

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう!

動労には規約も規則もないのか!



千葉地本一四〇〇名組合員は デタラメな「執行権停止」を絶対に認めない!

3・19、20「千葉地本破壊オルグ」がもの見事に粉碎されたことと、「オルグの実態」革マル分子の引きまわしは、日刊動労千葉七〇(全国版第五号)で明らかにした通りである。この千葉地本破壊「オルグ」粉碎組織防衛の闘いの勝利の画期的意義は、組織運営ルールを無視した革マル分子の不正義性を徹底的に暴露し、千葉地本の路線的・組織的優位性と正義性を組織内外に鮮明に指し示したことである。千葉地本の強固な団結力と腰のすわりぬ「オルグ団」という現象を引き出すために、焦りにかられて策動する革マル分子の挑発を、われわれは、権力に介入の口実を与えず、完全に粉碎した。中央本部は三月二〇日電話連絡第四三三三号をもって、千葉地本執行委員会の「執行権停止」を発動してきた。この電話連絡のデタラメさによって、今回の「オルグ」の不正義性はより一層鮮明となったのである。われわれは、かかる「執行権停止」は無効であると考え、絶対容認できないことを明らかにするものである。

「これが「オルグ」と言えるか!」

次に、われわれは不法・不当きわまる「執行権停止」攻撃の実態を見なければならぬ。まず第一に、われわれは中央本部自らが執行権停止を決定しつつも、その発動をゆ・予し、現に執行権の存在する千葉地本執行部を無視した「オルグ」の不正義性を糾弾する。

千葉地本以外に対しては指令を発出し、四〇〇(五〇〇名の人員を集め、一方的な意志統一をして「オルグ」に投入しながら、受け入れ地本の千葉地本に対しては、「オルグ」前日の午後林委員長から「明日入る」という電話による通告が一回あっただけで、「オルグ団」が到着するまで、地本にも、支部にも「どこの支部に、どのような人物が、何人で、何時に」入るかということが全く知らされていないのだ。

これが「オルグ」といえるのか。われわれはこれを、中央本部の名をもってする千葉地本に対する一方的な襲撃組織破壊であると断定せざるを得ない。

「まさに目茶苦茶な「執行権停止」の発動!」

第二に、地本には「オルグ」の指令も発していないのに、「オルグを拒否した」という「指令違反」を理由に、「執行権停止」を発効するということ、しかも、「地本執行部」に対する「執行権停止」をまず「支部」に通告するということ、し

かも、三月一九日時点で同日付の「執行権停止」の「通告書」を館山、幕張、千葉駅の各支部で、同じように提示しながら、地本執行委員も派遣されていなく千葉支部におけるそれを理由にして、三月二〇日付をもって電話連絡第四三三三号を発出する等々、この非論理的な組織運営を中央本部は四万七千組合員に何と説明するのか。メチャクチャとしか言いようがない。動労には、規約も規則もないのか。

「必ず勝利する!」

このデタラメな「オルグ」によって、動労の変質と革マルによる動労私物化セクト的引きまわしは鮮明となり、同時に、千葉地本排除をたくらむ革マル分子の不正義性とデタラメさも暴露された。しかし、この「オルグ」の失敗に動転した革マル分子は、隣接する東京管内への乗り入れ乗務員に対する「オルグ」や家庭への電話や直接家庭訪問をするという形での、新たな、そしてより危険な手段をもつての、千葉地本の擲乱・分断を狙った攻撃を開始してきた。

千葉地本一四〇〇名組合員は確信している。革マル分子の攻撃が陰険になればなるほど、千葉地本の団結はますます強固となっている。われわれは必ず勝利することを確信している。われわれの革マル分子に対する一〇年間の闘いは、何よりも雄弁にこの真理を物語っている。動力車職場で働くわれわれの労働者魂は、不正義と暴虐をいつまでも許しておくほどヒ弱ではな

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!